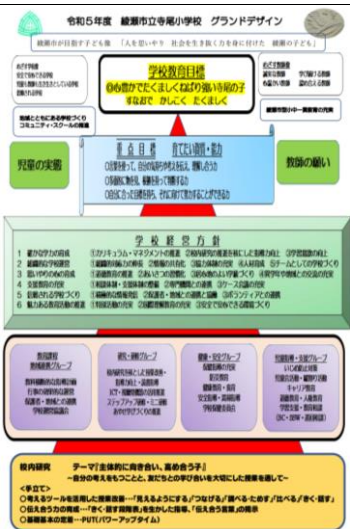


令和5年度 綾瀬市立寺尾小学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針		(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども
学校教育目標		心豊かでたくましくねばり強い寺尾の子
学校経営方針 (グランドデザイン)		 <p>令和5年度 綾瀬市立寺尾小学校 グランドデザイン</p> <p>綾瀬市の目指す子ども像 「人を思いやり、社会を生き抜く力を身に付けた、綾瀬の子ども」</p> <p>学校教育目標 心豊かでたくましくねばり強い寺尾の子 「何を学んだのか」という振り返りの時間を大切に、行事を通して身に付けたことは何かを明確にしていけるようにしていきます。</p> <p>児童の実態 児童が主体的に学習に取り組むことへの理解が深まり、それが授業改善や学級・学年経営につながるようになっていきます。</p> <p>教員の願い 児童が主体的に学習に取り組むことへの理解が深まり、それが授業改善や学級・学年経営につながるようになっていきます。</p> <p>学校経営方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童の学びの充実 2. 教職員の研修 3. 安全管理・教育環境整備 4. 支援教育 5. 組織運営 6. 情報提供・保護者・地域住民との連携 <p>校内研究 テーマ「主体的に学習する、意欲あふれる子ども」 一人ひとりの考えをもつこと、友だちとの学び合いを大切にしながら授業を通して～</p> <p>◎見えるツールを揃え、児童の学びの状況を「見えるようにする」「つなげる」「ほめる」「促す」 ◎見えない学びの過程を「見えるようにする」「つなげる」「ほめる」「促す」 ◎見えない学びの過程を「見えるようにする」「つなげる」「ほめる」「促す」</p>
今年度の重点目標		<ul style="list-style-type: none"> ○言葉を使って、自分の気持ちや考えを伝え、理解し合う力 ○多面的に物を見、根拠を持って判断する力 ○自分に合った目標を持ち、それに向けて努力することができる力
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「進んで学ぶ子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	児童、保護者ともに肯定的な回答がおおよそ8割以上を占め、児童が進んで学習に取り組む姿勢が少しずつ定着していることがうかがえます。また、すべての教職員が肯定的な回答をしています。校内研究や研修を通して、児童が主体的に学習に取り組むことへの理解が深まり、それが授業改善や学級・学年経営につながってきています。私たちはこの意識を保ちつつ、児童の生きる力の育成に努めます。
2 教育課程	児童は、学校行事や特別活動に積極的に参加している。	9割以上の児童、保護者が「そう思う」「ややそう思う」と回答しています。このことにより、児童自らがめあてをもち、学校行事に意欲的に取り組んでいる様子が分かります。また、それぞれの行事を通し「何を学んだのか」という振り返りの時間を大切に、行事を通して身に付けたことは何かを明確にしていけるようにしていきます。
3 児童・生徒指導	学校は、「すなおで思いやりのある子」を育てる指導を積極的に取り組んでいる。	毎年行われている児童会主催の「あいさつ運動」は、児童が中心となって「あいさつの大切さ」について考える良い機会となっています。今後も、相手のことを考えたあいさつや返事の大切さを引き続き指導するとともに、児童があいさつすることの良さに気付けるよう、児童に積極的に働きかけたいと思います。同時に、教職員の意識もより高めていきます。
4 児童・生徒指導	児童は、友人や先生との学校生活に満足している。	およそ9割の児童が「楽しい」と回答しており、友人や先生との学校生活に満足していると思われる。しかし、「楽しくない」と回答した児童も1割弱おり、不安や悩みを抱えていることが推測されます。今後も、一人ひとりの児童を大切にしながら支援体制をさらに充実させ、すべての児童が満足して過ごすことのできる学校を目指していきます。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	7割を超える保護者が肯定的な回答をしています。肯定的な回答、「わからない」という回答が3割弱ありました。引き続きスクールアンケートや道徳教育等を通じたいじめへの予防的取組、いじめの予防や発生時の対応に教職員が一つになって取り組んでいくとともに、今後も学校だより等で学校の取り組みについてお知らせしていきます。
6 保健管理	学校は、「たくましくねばり強い子」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。	肯定的な回答が多く見られました。今後も、児童自身が自分の心や身体の状態について関心を持ち、健康的な生活が送れるよう、保護者と連携し、指導と支援に努めていきます。これからも、おたよりや学校保健委員会を通して、情報発信を続けていきたいと思います。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	教職員は高い意識を持って取り組んでいることがうかがえます。日時を知らずに実施する避難訓練や、交通安全教室などの「命を守る」学習に力を入れて指導してきました。また、月に1回、校舎内外に危険箇所はないかを全職員で点検しています。これからも児童への安全指導の充実と環境整備に、しっかりと取り組んでいきます。
8 支援教育	学校は、児童に応じた支援の工夫をしている。	個々の児童に応じた支援の工夫をすることについて、教職員の意識が高まっていることがわかります。これからも、児童指導・支援グループを中心に職員で情報を共有し、必要に応じて様々な方と連携を図りながら、児童の実態や課題を把握して個に応じた支援体制の充実と努めていきます。
9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	児童の実態や課題を教職員で共有し、学校教育目標の具現化を図っています。今後も、チームとしての一体感とそれを支える教職員一人ひとりが責任と自覚をもち、児童のために一つのチームとして課題に取り組んでいきます。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	学習指導要領の内容や寺尾小学校の児童の実態をしっかりと把握し、それらに基づく指導の在り方についても研究を通して研修してきました。今年度も、横浜国立大学池田敏和教授をお招きし、算数科の指導力向上を中心に児童が学び合うことについて理解を深めました。算数科はもちろん、他教科にも学んだことを生かして授業改善ができるよう、今後も学習指導の充実を図る研修を計画的に実施していきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。	設問8に対する対応と同様、教職員が一つになり、学校生活の中で一人ひとりを大切にしながら指導に努めていきます。また学校や教職員の指導をご理解いただけるように、取組を発信するよう引き続き心がけていきます。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	9割近くの保護者が「そう思う・ややそう思う」と回答していますが、昨年度よりわずかに少なくなっているという結果になっています。来年度にむけて学校だよりや学年だより等の各種おたより、家庭訪問や個別面談を通じて学校の様子を知っていただけるよう努めていきます。また、昨年引き続き「分からない」と回答している家庭もあり言葉の問題や家庭の事情に十分に対応できていないこと等も一因として考えられます。多様性社会となった時代に対応できるようにこれからも多くの対応策で取り組んでいきます。
<p>【学校運営協議会からの意見及び改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導や挨拶の指導を先生たちはよくやっている。 ・宿題や家庭学習の取り組み方や取り組んでいるかどうかは保護者の問題だと思う。 ・運動会が午前開催になったことは寂しい。 ・大人が近所の人と挨拶をしているとそれを見て子供も挨拶をする。顔見知りだけでなく挨拶をするだけで地域の安全性が高まるのではないかな。 ・授業参観の中で学校保健委員会を実施することによって、保護者にも児童に指導したことが伝わるのでよかったのではないかな。 ・校内だけではなく、日常にも危険な場所は潜んでいる。危険な時は大きな声で「危ない」と周りが声かけをするだけで危機意識が高まる。 ・保護者からの回答で「分からない」という回答が多い設問項目に対して、「宿題や学校以外の勉強に取り組んでいるか。」や「学校はよい点を伸ばす努力をしているか。」など設問内容をもっと具体的にすると分かりやすく、少数派がもっとクローズアップされる結果になると思う。 		